

小さな電気製品火災でも「通報」しよう

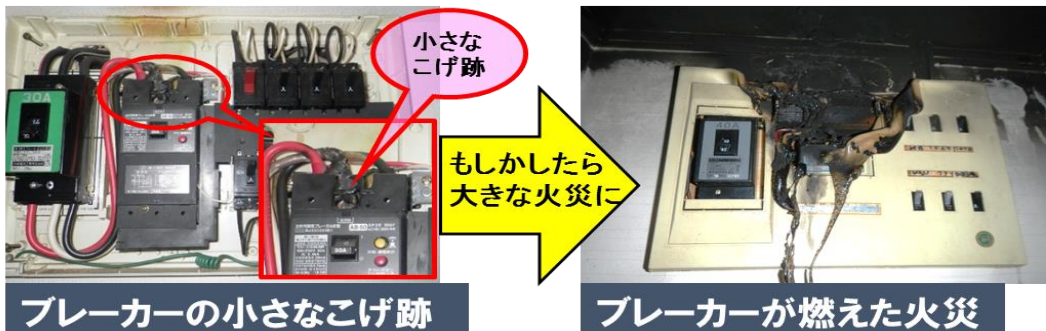
電気は、私たちの日常生活において必要不可欠なエネルギーとして社会の隅々まで深く浸透しています。その一方、電気を原因とする火災は、全火災件数が減少するなか増加傾向にあり、令和2年は全火災件数の約3割を占めています。

電気製品を正しく使い、異常等を早めに発見することで電気火災を防ぐことができます。東京消防庁では、どんな小さな電気火災でも原因調査をして火災予防に役立てています。火災が小さいほど詳細な出火原因の特定ができ、火災を予防することが可能です。同じ火災を繰り返さないためにも通報をお願いします。

通報するかどうか悩んだときは東京消防庁公式アプリや東京消防庁ホームページをご覧ください。お住まいの管轄消防署にご相談ください。

電気製品の「小さなこげ跡」でもご相談ください！

「小さなこげ跡」でも偶然に消えただけで、
大きな火災になるかもしれません！



それぞれ違う事例ですが、同じ原因（接続ネジのゆるみ）です



上の写真の例も、状況によっては大きな火災になることもあります

電気製品のこげ跡を見つけて
心配になった場合は、**こちらまで**
※東京消防庁版電気製品火災相談ガイドへリンクします



東京消防庁では電気製品の小さなこげ跡も火災として扱い、原因を調べて火災予防につなげています

《コンセント、差込みプラグ等による火災》

壁付コンセントに延長コードの差込みプラグや電気機器の電源プラグを差し込んだまま長年使用し続け、接触不良が発生すると、電気製品を使用時に発生する熱やコンセント内部の接続部の緩みによる熱が増大し出火する可能性があります。コンセントやプラグに焦げを発見したら、通報しましょう。

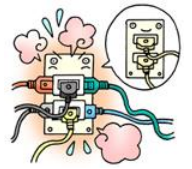


写真1 差込みプラグの焼損状況



写真2 コンセントの焼損状況

《トラッキング現象による火災》

トラッキング現象とは、コンセントに差し込んだプラグの差し刃間に付着した綿埃等が湿気を帯びて微小なスパークを繰り返し、やがて差し刃間に電気回路が形成され出火する現象を言います（図1・写真3参照）。

トラッキング現象による火災は、隠れた部分で発生することから、発見が遅れて思わぬ被害に繋がる場合があります。

トラッキング現象による火災を防ぐため、差込みプラグは、使用時以外はコンセントから抜くようにしましょう。長時間差したままのプラグ等は、定期的に点検し、乾いた布等で清掃し、発熱等の異常がある場合は、交換しましょう。

特に、埃や湿気の多い環境で使われているものや、家具等の陰に隠れているものには、注意しましょう。

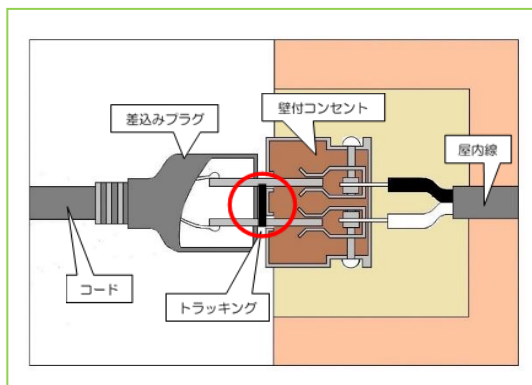


図1 トラッキング図解

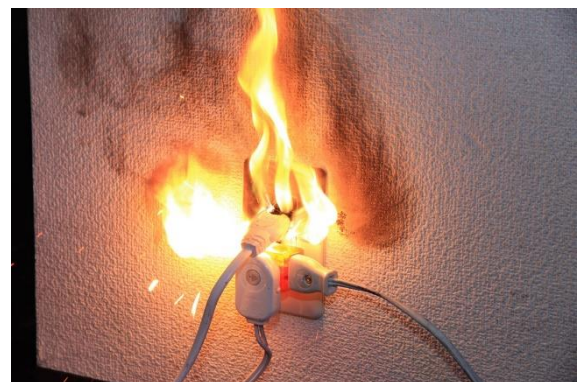


写真3 トラッキング（再現）

《火災事例》

事故概要① コンセントに異物を差し込んで短絡した事例

子供が、壁付コンセントに差し込まれていたACアダプタと壁付コンセントの隙間に1円玉を差し込んだため短絡した。
この火災で、子供が手にやけどを負った。



事故概要② バッテリーを分解して出火した事例

膨らんでいるバッテリーを処理しようと、分解したため出火した。



事故概要③ コンセントの蓋に電源コードを挟み込んで出火した事例

コンセントボックスのコード専用の場所を通していなかったため使用していたため、コンセントボックスの蓋を踏んだ際に、電線被覆を挟み込んで出火した。

